

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	生徒がそれぞれのニーズに応じて自立し、主体的に社会参加することができるよう、生徒一人一人を理解し、必要な知識、技能等を培うとともに、豊かな心と健やかな体を育む。
(2) 現状と課題	肢体不自由、知的障がいのある生徒が在籍しており、それぞれに対応する教育部を設けて指導している。年々、肢体不自由の生徒数が減少し、知的障がいの生徒が増加傾向にある。生徒の教育的ニーズ及び進路希望等が多様化していることから、卒業後、生徒が地域社会で自立した生活ができる力を身に付けるような指導のさらなる充実が求められている。
(3) 重点目標	1 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実 2 キャリア発達を促す指導の充実 3 地域と連携・協働した活動の推進 4 連帯と協力による学校運営の推進
(4) 結果の公表	学校評価結果を保護者に配布するとともに、学校ホームページに掲載する。

学校整理番号	特9
学校名	青森県立青森第一高等養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・ <b>肢体</b> ・病弱

自己評価実施日	令和8年2月19日(木)
学校関係者評価実施日	令和8年2月4日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
学校運営協議会委員(校長を除く9名)	
地域住民・地域公共施設館長	5名
障がい者支援機関	1名
障がい者就労支援機関関係者	1名
教育関係者	1名
保護者(P T A会長)	1名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	「何を学ぶか」を明確にした授業づくり 「できる状況」を吟味した授業づくり	教職員が授業のねらいを確認するとともに、生徒に対してその授業の目標を明確に示した授業実践が見られた。 生徒ができる状況づくりを意識し、実態や目標を考慮した教室環境の整備や教材教具の開発、工夫に取り組んだ。	B	個々の実態に応じた教材や環境整備がさらに進むと、より学びやすい授業になると思う。 職員が課題を意識し、環境づくりや授業のあり方を改善し続けることが大切である。	「何を学ぶか」を明確にした授業づくり、「できる状況」を意図的につくる指導を基盤とし、生徒一人一人の自己理解を踏まえ、生徒が自分で考え、選び、決めたと実感できる場を教育活動全体の中でより意識的に位置付けていく。
2	キャリア発達を促す指導の充実	本人の思いや願いを踏まえ「めいっばい」活動する指導の展開 社会的・職業的自立に向けた「自分の役割を果たす」活動の工夫	生徒がめいっばい活動できるような授業づくりを、教職員が意識して取り組んだ。 生徒の役割を意識した授業や活動を設定するとともに、称賛や次への期待を込めるような振り返りを大切に実践が見られた。	B	もう少し時間をかけて、生徒との対話、やりとりを行った方がよい。 生徒が自分の意見を伝えたり役割を果たしたりする機会を、より多様な場面で設定してほしい。 本人にとってめいっばいの大きさが、生徒と教員が同じ認識で温度差がないことが重要である。 自分らしい生き方の実現など、卒業後のキャリア達成につながるようしてほしい。	本人の思いや願いを丁寧に引き出す関わり、「めいっばい活動する」経験を通じた自己理解の促進、進路に関わる話し合いの機会や方法の工夫を通して、指導・支援の内容だけでなく「伝わり方」「実感の持ち方」にも配慮した進路指導の充実を図る。 進路指導を「意思決定支援」の視点で捉え直し、生徒の思いや選択が形成・表明・実現されていく過程を大切に指導の在り方について、校内で共通理解を深めていく。

3	地域と連携・協働した活動の推進	「テイネイブランド」の全校的取組の推進 教育部、寄宿舎、事務部の円滑かつ効果的な連携の工夫	テイネイブランドについては、学校祭や市民センター祭での販売、公共施設での展示、ホームページやSNSでの情報発信を行った。教育部や寄宿舎、事務部の連携については、比較的円滑に進めることができた。	B	テイネイブランドの魅力をより広く伝える取組を強化してほしい。各関係機関と連携し、効果的な情報の発信をしてほしい。生徒達の活動が広く地域に伝わることによって、やりがいを感じられるのではないか。	医療、福祉、労働機関等との連携の目的や成果、教育部、寄宿舎、事務部が連携して取り組んでいる内容について、学校だよりや説明の機会をとおして学校の取組が保護者に伝わるよう発信の工夫を重ね、保護者の安心と学校への信頼をより確かなものにしていく。
4	連帯と協力による学校運営の推進	重要業務（技能検定・発表会、東北肢不研、50周年事業）の遂行 服務規律の徹底と福利厚生への推進	重要業務については、関係職員が協力し滞りなく大会を運営することができた。50周年記念事業については、実行委員会を立ち上げ各担当に分かれて業務を進めた。職員会議等の機会をとらえ、毎月管理職から服務規律の徹底や休暇取得等について教職員へ周知した。	B	事業遂行に関する情報伝達の徹底と、リーダーを中心とした実行過程、全ての教員に至るまでの責任意識が大切である。検定等、生徒の技能の向上に努めながら、職員の負荷が軽減されることを期待する。	引き続き、「思い・根拠・手続き」の3つを学校全体の共通のキーワードにし、情報共有と早めの連絡と相談、合意形成を意識した業務推進、教職員同士が支え合う職場づくりをとおして、先生方一人一人が安心してもてる力を十分に発揮できるよう、安全・安心を最優先とした無理のない学校運営を進めていく。

(11) 総括	<p>・自己評価は4点法で平均が3.58と、肯定的な結果であり、特に、「困難事案への組織的対応」「いじめの未然防止」「保護者への丁寧な説明や信頼関係の構築」について、本校の教育活動の基盤が一定程度機能していることが確認できた。一方で、「業務分担や働き方」「施設・設備を含めた教育環境の整備」「保護者満足度の把握のあり方」については、教職員自身が課題を意識しており、学校組織や運営のあり方を見直しながら、より安全・安心で持続可能な教育活動の充実を図っていく必要がある。</p> <p>・保護者アンケートでは、4点法で平均が3.59と、高い評価が得られた。特に、「生徒が楽しく充実した学校生活を送っている」「教育活動全体への満足度」「安全・安心への取組」について高い評価が示され、本校の教育活動が保護者から信頼されていることがうかがえる。一方で、「PTA活動のあり方」「医療・福祉・労働機関等との連携」については、保護者にとって見えにくい面があることが示唆され、教育活動の質を高めるとともに、その取組や連携の状況を、よりわかりやすく発信していく必要がある。</p> <p>・生徒アンケートでは、2点法で平均が1.84と、前年度よりわずかに向上した。特に、「学校行事の楽しさ」「教職員の関わり方」については肯定的に受け止められている。一方で、自分の意見や要望がどの程度反映されているか、進路や生き方について十分に話し合う機会があったかといった点については、さらなる工夫が必要であることが示唆され、生徒一人一人が「自分で考え、選び、決めた」と実感できるよう、意思決定支援の視点を一層重視した教育活動の充実を図っていく必要がある。</p>
---------	--